

# CASBEE®-建築(新築)

# 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	NEWNO・SOSiLA高槻	階数	地上4F、地下0階
建設地	大阪府高槻市	構造	S造
用途地域	工業地域、準防火地域	平均居住人員	380人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,650時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年5月 予定	評価の実施日	2023年3月20日
敷地面積	13,613 m <sup>2</sup>	作成者	山岡 郁也
建築面積	9,470 m <sup>2</sup>	確認日	2023年3月24日
延床面積	29,069 m <sup>2</sup>	確認者	半田昌樹



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.9**

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.5**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.8

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 3.2

**LR のスコア = 3.7**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.8

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.8

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> 高効率な設備機器、節水器具を積極的に採用し、省エネ性能に配慮している。また、階高や荷重に余裕を持たせ、ゆとりのある計画としている。	<b>その他</b> 特になし。	
<b>Q1 室内環境</b> ・評価対象外	<b>Q2 サービス性能</b> ・耐用年数の長い外装、内装、配管材料を採用し建物の維持管理に配慮している。 ・階高、壁長さ比率、荷重に余裕を持たせ、ゆとりのある空間としている。	<b>Q3 室外環境 (敷地内)</b> ・周辺環境に配慮し、道路境界線、敷地境界線沿いには植栽を積極的に設けている。 ・外壁の色調や位置の検討、外観パースの作成による景観検証を行うなど、まちなみに配慮している。
<b>LR1 エネルギー</b> ・照明はLEDを採用し、高効率機器を選定している。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> ・節水器具の採用や、リサイクル材の積極的な採用で、資源保護に配慮している。 ・PRTR法に該当しない建材の採用、ノンフロン断熱材を採用することで、環境影響を及ぼす材料の使用削減に配慮している。	<b>LR3 敷地外環境</b> ・燃焼機器は使用せず、大気汚染防止に配慮している。 ・荷捌き車両の駐車スペースの確保や、トラックと一般車両との出入り口を分離することで、周辺道路の渋滞にならないように配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版  
NEWNO・SOSiLA高槻

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版  
■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2021SDGs(v1.1)

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄			評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>									<b>3.5</b>
<b>Q1 室内環境</b>									
<b>1 音環境</b>									
1.1 室内騒音レベル		-							
1.2 遮音									
1 開口部遮音性能		-							
2 界壁遮音性能		-							
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-							
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-							
1.3 吸音		-							
<b>2 温熱環境</b>									
2.1 室温制御									
1 室温		-							
2 外皮性能		-							
3 ゾーン別制御性		-							
2.2 湿度制御		-							
2.3 空調方式		-							
<b>3 光・視環境</b>									
3.1 昼光利用									
1 昼光率		-							
2 方位別開口		-							
3 昼光利用設備		-							
3.2 グレア対策									
1 昼光制御		-							
3.3 照度		-							
3.4 照明制御		-							
<b>4 空気質環境</b>									
4.1 発生源対策									
1 化学汚染物質		-							
4.2 換気									
1 換気量		-							
2 自然換気性能		-							
3 取り入れ外気への配慮		-							
4.3 運用管理									
1 CO <sub>2</sub> の監視		-							
2 喫煙の制御		-							
<b>Q2 サービス性能</b>						0.43			<b>3.8</b>
<b>1 機能性</b>									
1.1 機能性・使いやすさ									
1 広さ・収納性		-							
2 高度情報通信設備対応		-							
3 バリアフリー計画		-							
1.2 心理性・快適性									
1 広さ感・景観		-							
2 リフレッシュスペース		-							
3 内装計画		-							
1.3 維持管理									
1 維持管理に配慮した設計		-							
2 維持管理用機能の確保		-							
<b>2 耐用性・信頼性</b>					<b>3.3</b>	0.50			<b>3.3</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振					<b>3.0</b>	0.50			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		-			3.0	0.80			
2 免震・制震・制振性能		-			3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数					<b>4.1</b>	0.30			
1 躯体材料の耐用年数		-			3.0	0.20			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		金属サンドイッチパネル:30年			5.0	0.20			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		浸透性表面硬化剤:30年、外壁現し:40年、デッキプレート:40年			5.0	0.10			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		屋外、多湿部:ガルバリウム鋼板			4.0	0.10			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水:VLP、通気:VP、冷媒:Cu			5.0	0.20			
6 主要設備機器の更新必要間隔		-			3.0	0.20			
2.4 信頼性					<b>3.0</b>	0.20			
1 空調・換気設備		-			3.0	0.20			
2 給排水・衛生設備		-			3.0	0.20			
3 電気設備		-			3.0	0.20			
4 機械・配管支持方法		耐震クラスA以上			4.0	0.20			
5 通信・情報設備		-			2.0	0.20			

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>4.3</b>	0.50	-	-	<b>4.3</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>5.0</b>	0.30	-	-	
1 階高のゆとり	階高:3.9m以上		5.0	0.60	-	-	
2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率<0.1		5.0	0.40	-	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>	床用:14700N/m <sup>2</sup> 、架構用:9800N/m <sup>2</sup> 、地震用:5900N/m <sup>2</sup>		<b>5.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.4</b>	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性	-		3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性	-		3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性	ケーブルラック配線、メッセンジャーワイヤー、配管内配線		5.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性	ケーブルラック、配管内配線、OAフロア		5.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性	-		3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保	-		3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.57</b>	-	-	<b>3.2</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>	-		<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>	緑地による良好な景観の形成、外観パースによる検証		<b>4.0</b>	0.40	-	-	<b>4.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>2.5</b>	0.30	-	-	<b>2.5</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	-		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	-		<b>2.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.7</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>3.8</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>	BPI <sub>m</sub> =0.88		<b>4.2</b>	0.20	-	-	<b>4.2</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>	-		<b>3.0</b>	0.10	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>	BEI <sub>m</sub> =0.63		<b>4.7</b>	0.50	-	-	<b>4.7</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>2.0</b>	0.20	-	-	<b>2.0</b>
集合住宅以外の評価			<b>2.0</b>	1.00	-	-	
4.1 モニタリング	-		3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制	-		1.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング	-		-	-	-	-	
4.2 運用管理体制	-		-	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.8</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.4</b>	0.20	-	-	<b>3.4</b>
1.1 節水	節水器具の採用		<b>4.0</b>	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無	-		3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無	-		3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>4.0</b>	0.60	-	-	<b>4.0</b>
2.1 材料使用量の削減	ニューフェローデッキ、F.T.Pile構法等の採用		4.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	-		3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-		3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	床:ビニル床シート、天井:ロックウール化粧板、断熱材		5.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	-		-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	分別が容易なLGS下地、OAフロアの採用		5.0	0.22	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.9</b>	0.20	-	-	<b>3.9</b>
3.1 有害物質を含まない材料の使用	PRTR法に該当しない建材を4種別採用		<b>5.0</b>	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			<b>3.5</b>	0.70	-	-	
1 消火剤	-		-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	ODP=0、1<GWP<10の発泡剤を用いた断熱材を採用		4.0	0.50	-	-	
3 冷媒	-		3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.3</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>	LCCO2排出量削減に配慮		<b>3.5</b>	0.33	-	-	<b>3.5</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>3.4</b>	0.33	-	-	<b>3.4</b>
2.1 大気汚染防止	燃焼機器の採用なし		<b>5.0</b>	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善	-		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			<b>2.7</b>	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減	-		3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制	-		3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制	管理用車両や荷捌き用車両の駐車スペースの確保		4.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制	-		1.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.1</b>	0.33	-	-	<b>3.1</b>
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 騒音	-		3.0	1.00	-	-	
2 振動	-		-	-	-	-	
3 悪臭	-		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 風害の抑制	-		3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制	-		-	-	-	-	
3 日照障害の抑制	-		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			<b>3.7</b>	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	周囲への漏れ光に配慮した屋外照明計画		4.0	0.70	-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-		3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
<b>Q2 サービス性能</b>															
1.2.3 内装計画	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.1 空調・換気設備	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	2.0	2.0	○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	2.0	1.0	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	1.0	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>															
1 生物資源の保全と創出	7.0	-	2.0	-	2.0	-	-	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	4.0	-	2.0	1.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	2.0	-	-	-	-	-	-	1.0	-	1.0	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	5.0	-	-	-	-	1.0	1.0	-	-	1.0	2.0	-	-	-	-
<b>LR1 エネルギー</b>															
2 自然エネルギー利用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>LR2 資源・マテリアル</b>															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	4.0	-	-	4.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	4.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>LR3 敷地外環境</b>															
2.2 温熱環境悪化の改善	6.0	-	1.0	-	-	3.0	1.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	3.0	-	-	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0	-	1.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標	
<b>Q1 室内環境</b>	
2.1.3 外皮性能	窓システムSC - 窓の日射熱取得率(η) - U値(W/m2K) 窓システム - 屋根 - 外壁 - 床 - 住戸部分 窓システムU値 - 外皮UA値 - ηAC - ηAH -
3.1.1 昼光率	昼光率 0.0%
4.2.2 自然換気性能	自然換気有効開口面積率 0.0%
<b>Q2 サービス性能</b>	
1.1.1 広さ・収納性	執務スペース .0㎡/人 病床 .0㎡/床 シングル .0㎡ ツイン .0㎡
1.1.2 高度情報通信設備対応	コンセント容量 0.0 VA/㎡
1.2.1 広さ感・景観	天井高 0 m
1.2.2 リフレッシュスペース	リフレッシュスペース 0.0% レストスペース 0.0%
2.2.1 躯体材料の耐用年数	想定耐用年数 0 年
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	想定必要間隔 30 年
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	想定必要間隔 30 年
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔	想定必要間隔 15 年
3.1.1 階高のゆとり	階高 6.58 m
3.1.2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率 6.0%
3.2 荷重のゆとり	床荷重 14700 N/m2
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>	
1 生物資源の保全と創出	外構緑化指数 41% 建物緑化指数 0%
3.2 敷地内温熱環境の向上	空地率 30% 水平投影面積率 7% 地表面対策面積率 15% 舗装面積率 24%
<b>LR1 エネルギー</b>	
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI/BPI <sub>m</sub> 0.88 断熱等性能等級 対象外 相当
2 自然エネルギー利用	自然エネルギー直接利用量 0 MJ/年㎡ 採光を満たす教室数 0.0% 採光を満たす住戸数 0.0% 通風を満たす教室数 0.0% 通風を満たす住戸数 0.0%
3 設備システムの高効率化	BPI/BPI <sub>m</sub> 非住宅 0.63 住宅 - 太陽光 .0kW 太陽熱等 .0kW 蓄電池 .0kW
<b>LR2 資源・マテリアル</b>	
1.2.1 雨水利用システム導入の有無	雨水利用率 0.0%
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	特定調達品目 断熱材 エコマーク商品 ビニル床シート、ロッキング材、遮熱材の特定品目等 -
2.5 持続可能な森林から産出された木材	使用比率 0.0%
3.2.1 消火剤	オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)
3.2.2 発泡剤(断熱材等)	オゾン層破壊係数(ODP) 0 地球温暖化係数(GWP) 3
3.2.3 冷媒	オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)
<b>LR3 敷地外環境</b>	
2.2 温熱環境悪化の改善	見付面積比 109% 隣棟間隔指標R <sub>w</sub> 1.44 地表面対策面積率 25.0% 屋根面対策面積率 #DIV/0! 外壁面対策面積率 #DIV/0! 見付面積S <sub>b</sub> 2.628㎡ 卓越風向と直交する最大敷地幅W <sub>s</sub> 124.039 m 基準高さH <sub>b</sub> 19.38 m 緑地 822㎡ 水面 ㎡ 保水性対策面 ㎡ 高反射対策面 ㎡ 再帰性反射対策面 ㎡